

協力してよりよい学級づくりをしようとする 意欲を高める学級活動の工夫

～ 個人目標の達成を目指したチーム活動を通して ～

特別活動班 松本 茂生（小学校教諭）

学級の実態（6年生）

- 素直
- 真面目
- 責任感が強い
- 消極的
- 発表が苦手
- 友達とのかかわりが少ない



課題解決の手だて

- 協力して目標達成を目指す活動
- 友達のよさを認め合う活動
- 話し合い活動の工夫

学習指導要領

信頼し支え合う、
楽しく豊かな学級

手だて① 個人目標の達成を目指したチーム活動

- 個人目標の設定。※「目標設定用紙」を活用
- 同じ種類の目標の児童でチームを結成。
 - ・持久走チーム ・漢字チーム ・拳手チーム
 - ・家庭学習チーム ・マラソンカードチーム
- チームごとに活動時間と内容を考え、実践活動を行う。毎週、取組の成果をチーム内で報告し、次週の課題を話し合う。
- 個人目標の達成を、「個人の活動」から「チームで協力して取り組む活動」に発展させ、最終的に「学級全体を一つのチームとしてとらえた活動」を話し合うことにより、協力することの意義について考えた。

目標設定用紙の例



今回の目標：一日二回以上、手を挙げる。

<チーム活動の実践例> 家庭学習チーム

「家庭学習ノート〇〇ページ達成」という目標を設定し、毎週、お互いの進めたページ数をチェックし合ったり、お互いのノートのよいところを探し評価し合ったりする活動を続けた。最終的に、全員が、自ら設定した高い目標ページ数をクリアすることができた。

手だて② 友達のよさを認め合う

- 友達のよい行動や努力していたところを見つけて、毎日色紙に書き、教室の壁の各個人のスペースに掲示する。（レインボーカード）



手だて③ 話し合い活動の工夫

- 話し合いのルールを明確化。（四人グループ、司会者持ち回り、いすを向けてすぐ開始）
- 学活、道徳、教科等、生活のさまざまな場面で、1分程度の短時間の話し合いを数多く行い、自分の意見を話す習慣づくりを行う。
- 「四人の意見を集約→各司会者が全体に報告」のパターンを作り、全員が交代で全体の前で発表できるようにする。

成果

- ほとんどの児童が個人目標を達成。（協力の成果を実感）
- よさを認め合う活動の広がり。（仲良し以外の多くの友達に）
- 話し合い活動の活性化。

課題

- 話し合い活動で多様な意見を引き出す工夫がさらに必要。
- 結果重視の評価になりがち。（そこに至る過程の努力や個人の変容を認める指導が不足）